

昔ながらの駅舎から、地域の元気を生み出したい

大井川鐵道の無人駅「五和駅」。渡邊さんは、昭和2年に建てられたこの駅舎を、楽しく面白くするため「チームおもしろ五和駅」の益長として、活動しています。

【いつもの場所を面白く】

退職後、何か地域の役に立ちたいという思いから、自宅周辺の草刈りをしていたと話す渡邊さん。当時の五和駅は、無人駅で寂しい様子だったと振り返ります。

「ある日、草刈りをしながら県道まで出たら、五和駅の周りに草が生い茂っているのがすごく気になって。それまでも地域活動には参加してきたから、それなりに地元で貢献しているつもりだったけど、まだまだ自分にはやれることがあると、反省しました。以来5年間、五和駅の草刈りや飾り付けをするうちに、だんだん仲間が増えて、今ではサポーターが21人もいます。



ターが21人もいます。

ます。みんなで一緒に五和駅を面白くしようと、アイデアを練る日々です」

【生みの苦しみを楽しむ】

渡邊さんやサポーターが、それぞれ得意なことを生かし



益長 益長 渡邊琢史さん(志戸呂)

て、花壇を整備したり、かかしを手作りしたりして地域を元気づけています。

「1年中同じままでは面白くないと思って、季節に合わせるいろいろな飾り付けをしていますよ。受験シーズン

には、五和駅をもじって「合格駅」に変えています。今では、受験生が訪れるご利益スポットの一つ。他にも、金谷茶まつりに合わせて茶娘のかかしを置いたり、初夏にはアジサイを飾ったりして、にぎやか

がどうすれば面白くなるかを、渡邊さんは常に考えるようになったといいます。

「アイデアを思い付いた時、それを実行するにはこんな問題があると、同時に思い浮かべてしまうことがあります。でも、それを一つずつ、どうすれば解決できるかを考えて、実現しています。まるで、雑草を取り除いてきれいな花を見せるようにね。できない理由を残さないことが、私のモットーです」

駅の待合室には、誰でも書き込めるノートが置かれています。このノートには、地元の人たちからのお礼や、遠方の観光客からのメッセージが綴られています。

「素敵な駅ですね」と書いてくれる人がいて、ありがたいですね。誰かに褒められるために活動しているわけじゃないけれど、やっぱりお礼を言われるとうれしいし、やってよかったと思います」

どこかほっとする、昔ながらの雰囲気を残した五和駅。渡邊さんはこれからも、この駅舎から地域の元気を発信し続けます。



駅舎に七夕飾りを付けるチームおもしろ五和駅サポーターの皆さん

Shimadajin File #101

Story 島田人